事業者（職員）向　**放課後等デイサービス自己評価表**

基本塾優遊　八坂中央

記入年月日：令和　4　年　　12　月　　15　日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	40%	20%	当日の天候、人数等によって、活動場所の工夫をしているので問題は見られない。
	2	職員の配置数は適切であるか	40%	20%	利用者人数によって支援数の調整をしているが十分でない時もある。法的には問題はない。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	50%	30%	現在の利用者ではバリアフリーは必要ないが、今後設備改善も検討される。玄関先に段差があり、注意している。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	60%	0%	利用者の関係で会議を開く時間が難しく、定期的に会議をしているが十分とはいえない。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	40%	10%	保護者からのご意見についてはその都度報告し、共有している。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	20%	20%	公開されたら全職員に知らせたい。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	20%	20%	外部評価を知らない職員が多い。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	80%	0%	専門家による研修会を定期的に実施し、職員の資質向上を図っている。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	50%	0%	時間の許す限り、保護者、利用者の課題解決の時間を取り、客観的に分析し、理事長の指導を頂きながら、サービスの向上に繋げるようにしている。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	40%	10%	標準化されたツールを利用していきたい。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	50%	10%	毎月定期的に集まって教材、教具等の工夫改善等について協議している。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	80%	0%	季節、月毎、子供の発達年齢に沿った活動を工夫し、魅力のある活動内容にしている。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	70%	0%	季節・場所の特徴を生かした活動を工夫している。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成しているか	50%	0%	子どもの興味関心、特性を考え、魅力的な活動になるように工夫している。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	100%	0%	支援開始時には打ち合わせを行い、支援内容、役割分担等の確認をしている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	100%	0%	できるだけ、その日のうちに確認し合っている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	80%	10%	サービス提供記録を作成し、日々の支援記録を取り、家庭にも報告している。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	40%	10%	3か月ごとにモニタリングをし、サービス計画見直しの必要性を判断している。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っているか	40%	10%	ガイドラインに沿って支援できるよう努力している。

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	50%	0%	子どもの状況を書面で詳しく報告、説明しサービス担当者会議に参画している。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	70%	0%	送迎確認は、文書、電話連絡で事前にチェック、確認すると共に、さらに修正時には電話・メール等での確認をし、トラブルを防ぐようにしている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	10%	10%	現在の利用者では問題の発生はなく、家庭との連絡を密に取るように注意している。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	20%	20%	できる限り、情報を得るように努めている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	20%	10%	今後必要になれば、情報を提供する予定である。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	10%	20%	理事長と相談し、理事長が相談支援を受けている。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	10%	60%	現在は交流の機会を設けていないが、将来的に検討を考えたい。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか	0%	50%	理事長と相談し、参加する方向で進めている。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	60%	0%	必要に応じて電話連絡、連絡帳等を利用したり、毎月、保護者会を開催したりして、共通理解を図るようにしている。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント･トレーニング等の支援を行っているか	60%	20%	理事長の方針通り、主任研修会を通して支援を行うよう努めている。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	30%	0%	必要に応じて行っている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	50%	0%	子育ての悩み、相談については、理事長に報告し、その都度、適切な助言をもらっている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	40%	0%	毎月定期的に保護者会を開き、子育ての悩み、子育ての情報を共有できるようにしている。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	70%	0%	事故、苦情、活動時の問題発生については、状況を理事長に詳しく報告し、迅速に解決するようにしている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	70%	0%	活動概要、行事予定、保護者に周知したいこと等については、毎月定期的に『優遊だより』を発行し情報の共有を計っている。
	35	個人情報に十分注意しているか	100%	0%	鍵の掛かる戸棚に入れ、情報の漏洩には十分注意している。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	60%	0%	保護者との意志疎通、配慮事項については連絡帳を利用時に活用しているが確認不足の家庭もあるので電話連絡を取っている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	0%	50%	コロナの関係で、地域住民を招待するような活動は難しい。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	40%	0%	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症、その他のマニュアルについては、各家庭に知らせている。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	50%	0%	地震、火災時の避難や災害等について、事業所で避難訓練を実施し、意識を高めると共に、安全な生活ができるように配慮している。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	50%	0%	虐待についての共通理解を、資料を基に図っている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	40%	0%	身体拘束についての文書を作成し、保護者に共通理解を計ると共に、署名捺印を頂いている。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	10%	10%	アレルギーの子どもたちは文書、連絡帳、電話等で確認し、おやつ時に注意して与えている。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	50%	0%	事故発生時はマニュアルを元にヒヤリハットを作成し、共通理解を計っている。